

QYC

KONICA

コニカアイの使い方

お買上げくださいますありがとうございます。



コニカアイは小型で軽くデラックスな高性能を誇る
ハーフサイズカメラで、F1.9の大口径、6枚構成の
ヘキサノンレンズは大型カメラに負けない描写力を持ち、
カラー効果も満点です。ファインダーの中で距離もシ
ャッター速度もわかる新しい性能を備え、絞りとシャ
ッター速度の組み合わせが自動的にきまる特殊プログ
ラム方式の完全EE機構は、明るいところから暗いと
ころまで、すべてカメラまかせ、暗すぎて写せないと
きは中止をカメラが指示してくれますから、全く失敗
がなく、どなたにも美しい写真がうつせます。

下記のところはぜひお読みください。

使い方のたいせつなところ.....	6
EE撮影のやり方.....	10
フィルム感度の合わせ方.....	14
マニュアルレバー.....	15
露出警告マークについて.....	16
フィルムの入れ方.....	17
ピント合わせはマークで.....	22
便利なコニカアイのファインダー.....	24
カメラはしっかり構えて.....	26
フィルムの巻戻し方.....	28

目次

コニカアイのおもな性能.....	4
各部分の名まえ.....	7
巻上げレバーとフィルムカウンター.....	12
裏ふたの開け方.....	13
フィルターを使うとき.....	30
逆光線撮影の露出について.....	32
フラッシュ撮影のやり方.....	34
コニカアイのシャッターについて.....	37
B (バルブ) 露出について.....	38

コニカアイのおもな性能

画面サイズ……17.5×24ミリ (ハーフサイズ)

使用フィルム……35ミリフィルム (J135) パトローネ入り

レンズ……ヘキサノンF1.9 30ミリ 5群6枚構成 改良アンバーコーテッド

シャッター……コパルB特殊プログラム自動シャッター 絞り羽根兼用二枚羽根
ピハインド式 B・1/30秒～1/800秒 (B露出は絞り開放のみ)
マニアル絞りF1.9～F16 (シャッター速度は1/25秒 X接点)

露出調節……EE (エレクトリック・アイ) 機構による自動調節

EE連動範囲……ASA100においてEV6.8 (F1.9 1/30秒)～EV17 (F13 1/800秒)

ファインダー……採光式ブライトフレーム 倍率0.52× パララックス修正マーク
ゾーンフォーカスマーク シャッター速度表示 露出警告マーク付

安全装置……暗すぎて写せないときはシャッターボタンロック この場合ファインダー内に赤色の露出警告マークが現われます。

ピント合わせ……回転ヘリコイド式 ファインダー内ゾーンフォーカスマーク合わせ
クリックストップ付 レンズマウントに距離目盛を表示

フィルム巻上げ……トップレバーによる一操作巻上げ セルフコッキング 二重露出防
止 引出角13° 巻上角90°

フィルムカウンター……裏ぶたを開くと自動的にスタートマークに戻るオートマチックフイ
ルムカウンター 順算式

フィルム巻戻し……巻戻しボタンを一度押してクラックで巻戻す (巻戻し中はボタンが
回転する)

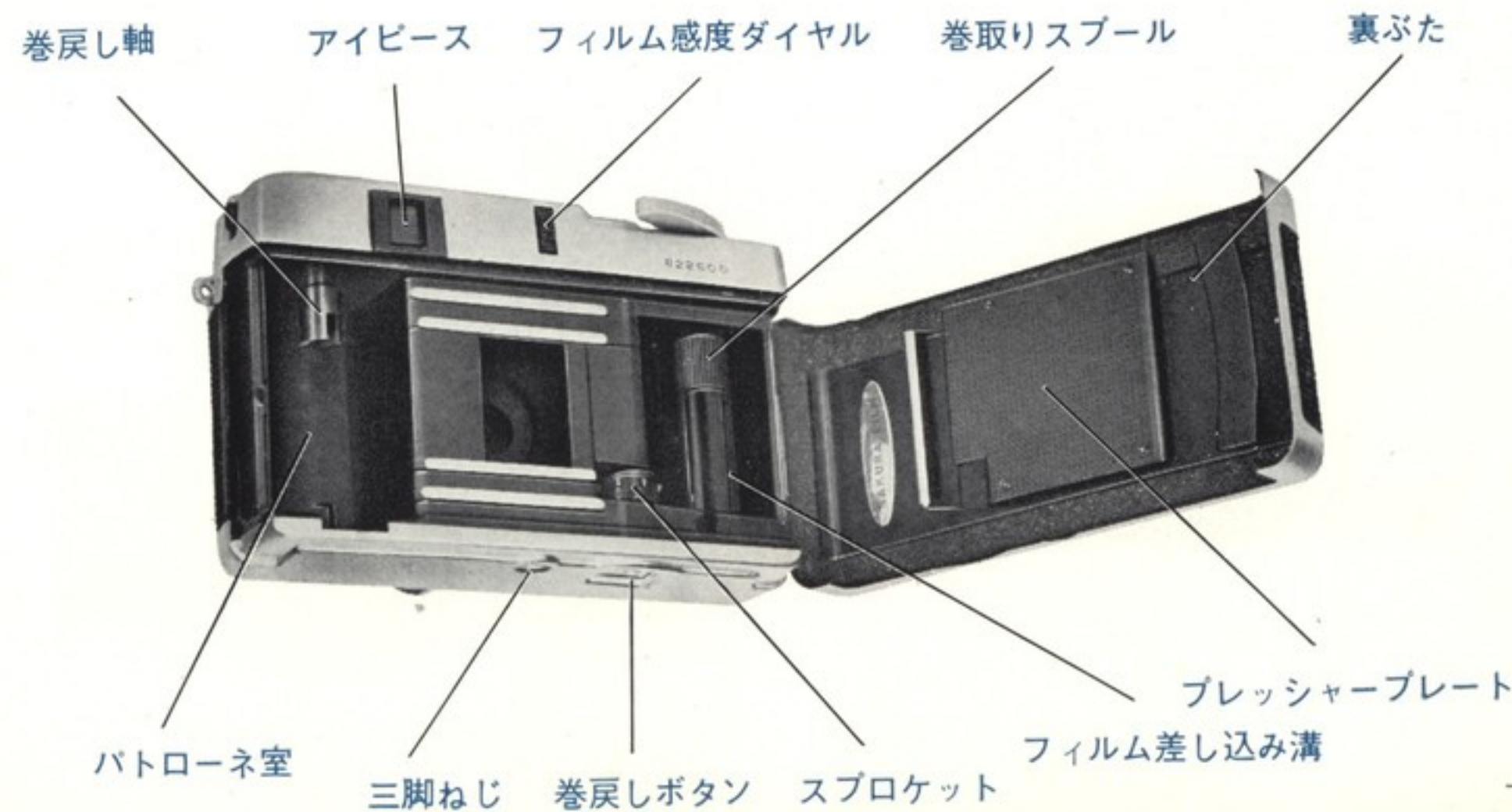
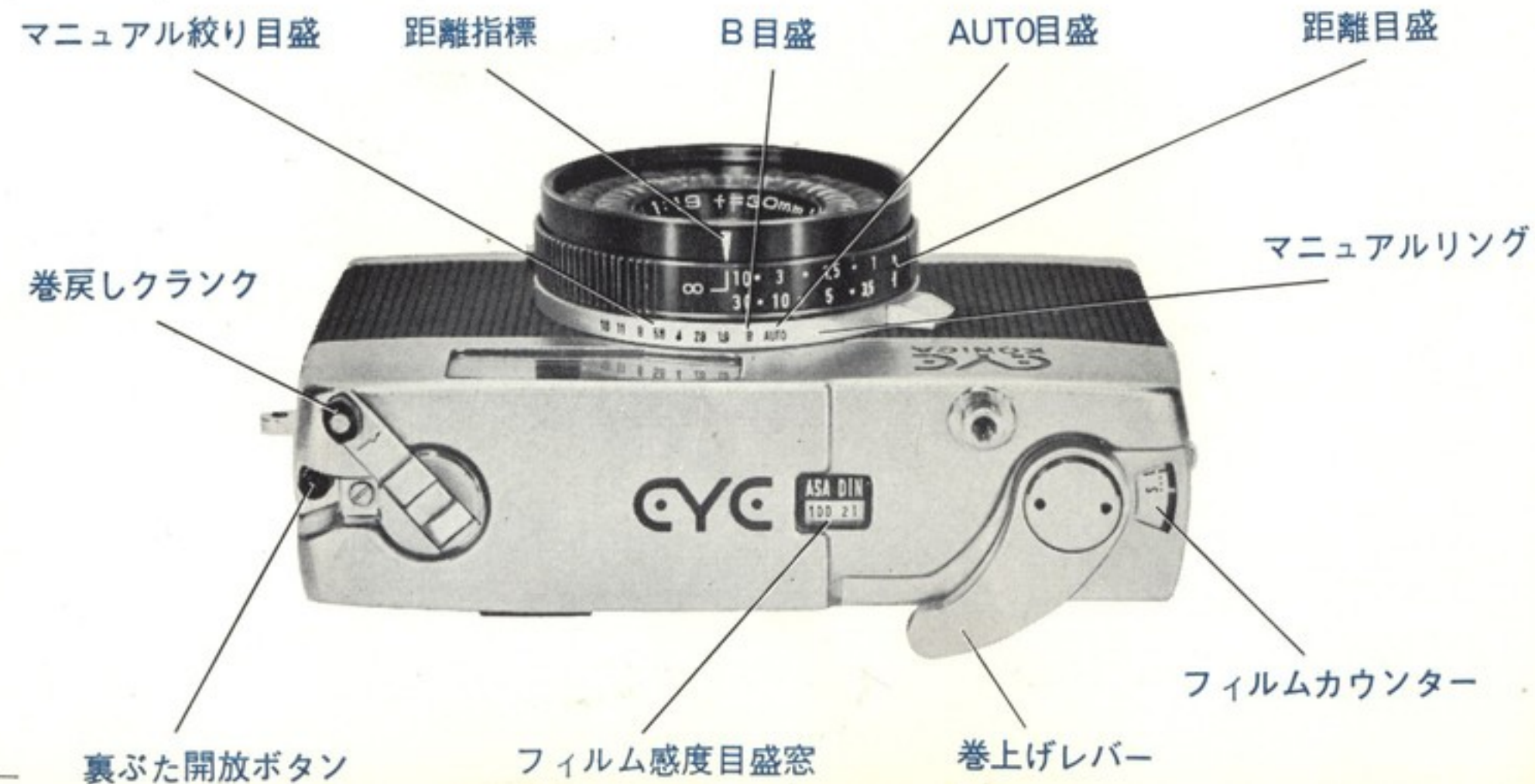
フィルター……ねじ込み式 ねじ径46ミリ ピッチ0.75ミリ

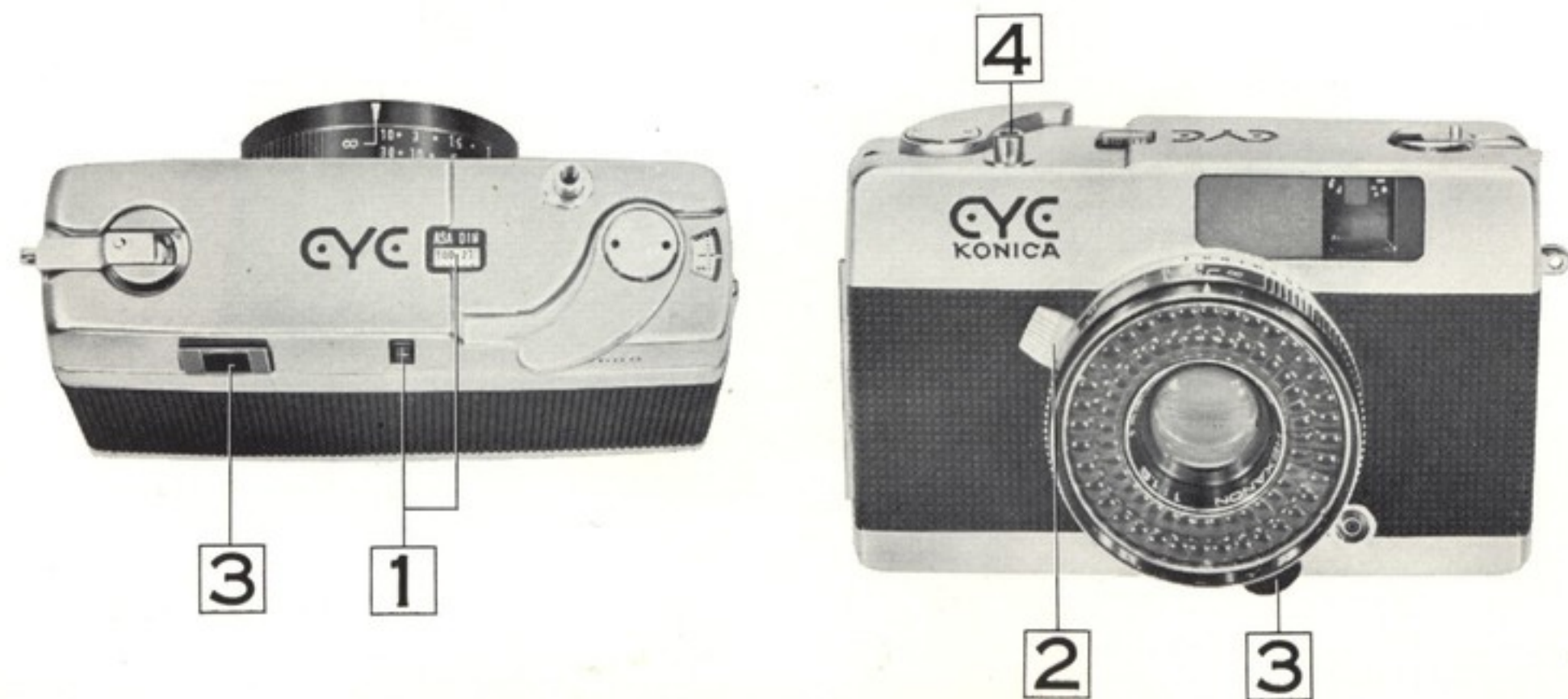
フード……ねじ込み式専用フード

大きさ重量……112ミリ (幅)×69ミリ (高さ)×46ミリ (厚さ) 420グラム

- カメラにフィルムを入れたら、使用フィルムの感度（ASA）に相当する目盛を正しく合わせておき、マニュアルリングをAUTOに合わせてください。これでEE撮影がおこなえます。
- 撮影しないときはレンズキャップをつけておいてください。こうしておきますと、フィルムが巻上げられていても、不用意にシャッターがきれる失敗を防止できます。
- 暗すぎて写せないところでは、シャッターボタンを押し下げたとき、ファインダー内に赤色の露出警告マークが現われ、同時にシャッターボタンに安全装置がかかってシャッターがきれません。
- フィルムが終りになった最後の巻上げで、レバーが途中で動かなくなったときは、無理に巻上げないで、巻戻しボタンを押したまま、レバーを止まる位置まで巻上げて元に戻してください。







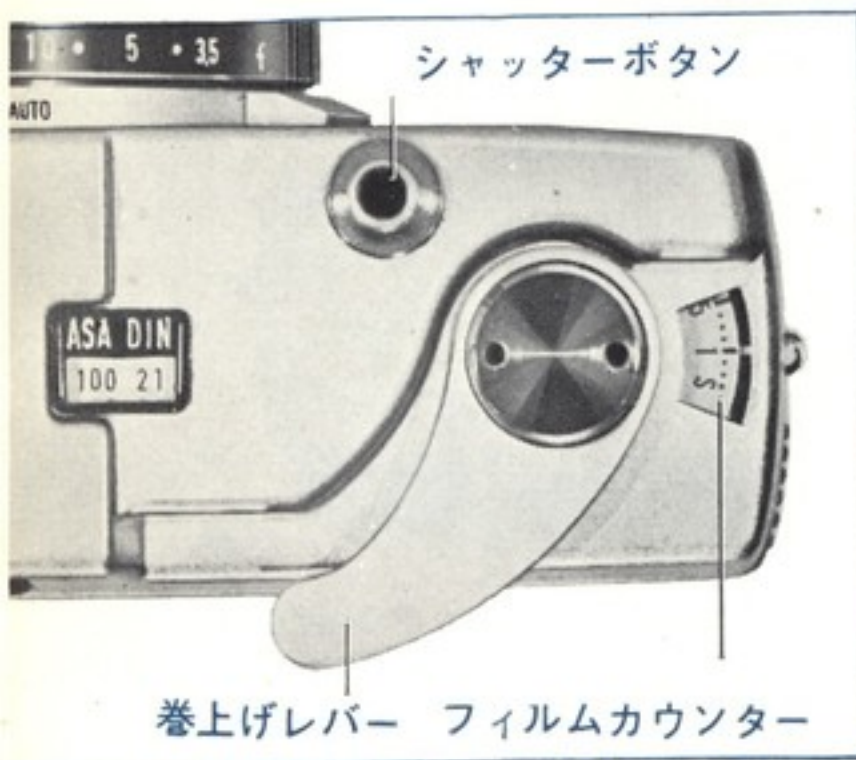
コニカアイにフィルムを入れたら次の順序で撮影ができます。

- ① フィルム感度ダイヤルを回し使用フィルムの感度（ASA）に相当する目盛を合わせておきます。
- ② マニュアルリングをAUTOに合わせておきます。
- ③ ファインダーをのぞきピントを合わせて構図を決めます。
- ④ シャッターボタンを静かに押してください。

コニカアイのEE機構が特殊プログラム自動シャッターに働いて、組み合わされたシャッターと絞りが明るさに応じて自動的に変化し適正露出はカメラが決めてくれます。

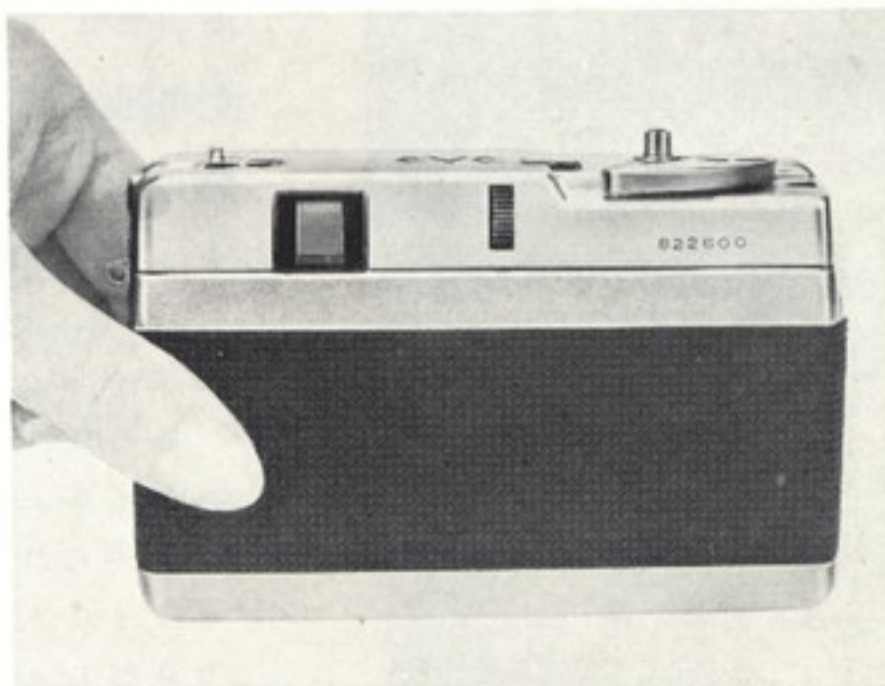
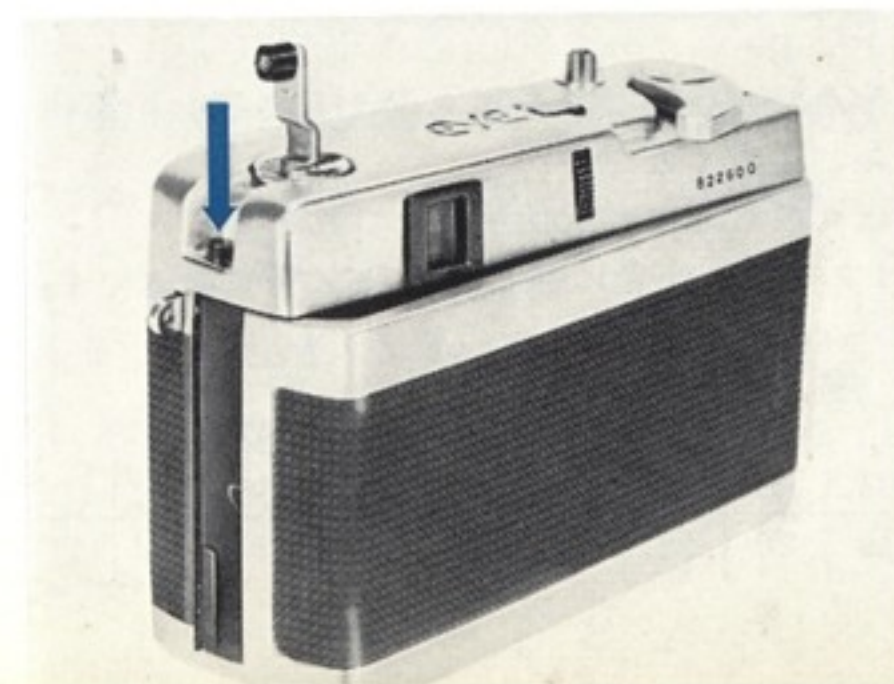
暗すぎて写せないところでは、シャッターボタンを押し下げたとき、ファインダー内に赤色の露出警告マークが現われ、同時にシャッターボタンに安全装置がかかってシャッターがきけません。

巻上げレバーは止まる場所まで
確実に操作してください。

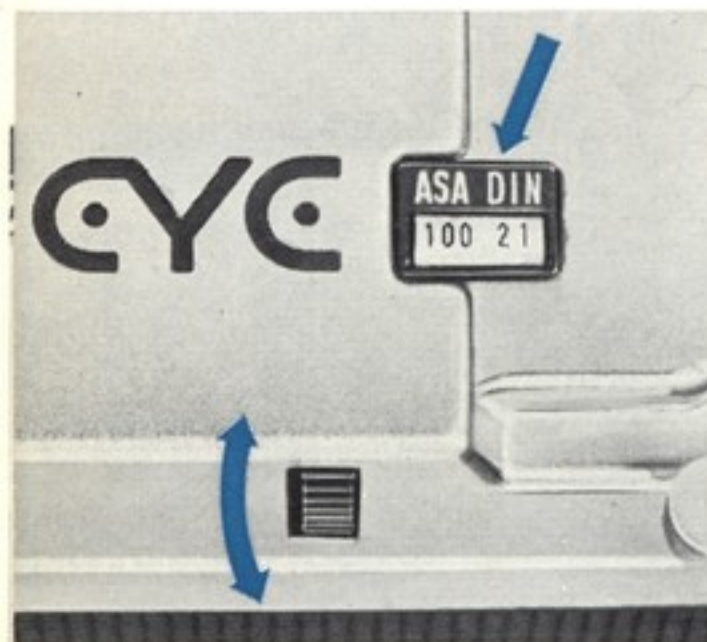


- 巻上げレバーを止まる場所まで回すと、フィルムが一枚巻上げられ、フィルムカウンターが一目盛進み、同時にシャッターがチャージ（シャッターボタンを押せばきれる状態になる）されます。
- 巻上げレバーは一回操作したら、シャッターをきらなければ続けて巻上げることはできません。またシャッターをきったら、巻上げない限り再びシャッターをきることができない二重露出防止機構になっています。
- フィルムカウンターは、巻上げレバーを操作するごとに一目盛ずつ進みます。そして裏ぶたを開くと自動的にスタートマーク（S）に戻ります。

裏ぶたを開くには、巻戻しクランクを起し、その下にある裏ぶた開放ボタンを指先で押すと開きます。



裏ぶたを閉じるには、裏ぶたの端を指先で押えると自動的にロックされます。



カメラにフィルムを入れたら、使用フィルムの感度（ASA）に相当する目盛を正しく合わせておいてください。フィルム感度ダイヤルを指先で回すと上部の窓に感度目盛が現われます。各目盛ごとにクリックストップになっています。

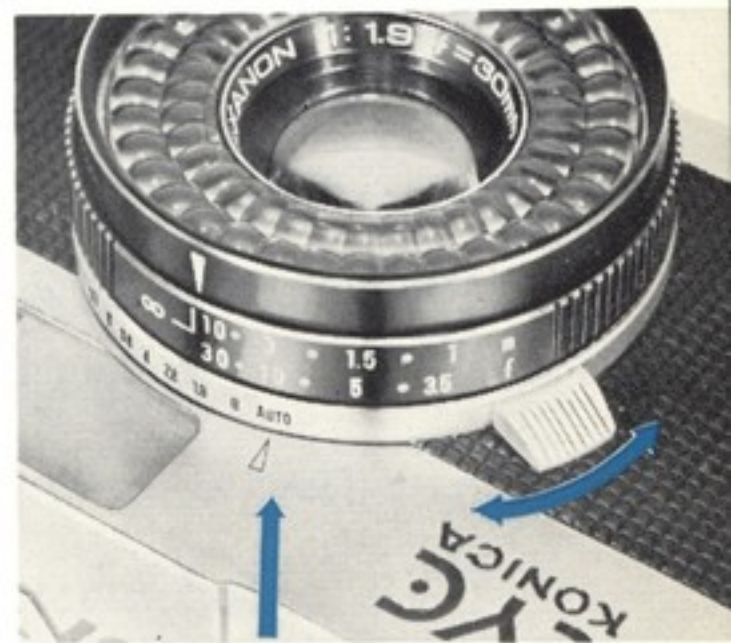
- フィルムの感度（ASA）はフィルムの外箱や使用書に書いてあります。
- フィルム感度（ASA）の合わせ方をまちがえると正しい露出が得られませんからご注意ください。
- フィルム感度目盛はASAとDINが併記してあります。
- ASA・DINとはフィルムが光に感じる度合を示す単位です。

フィルム感度目盛

ASA	10	12	16	20	25	32	40	50	64	80	100	125	160	200	250	320	400
DIN	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27

マニュアルレバーによって、リング上のAUTOの目盛を指標に合わせておくとEE機構が働きます。EE撮影の場合は必ずAUTOに合わせておいてください。

マニュアルレバーを動かして、AUTOの目盛を指標からはずすとEE機構が解かれます。そしてB目盛に合わすとバルブ露出がおこなえます。ただしこの場合の絞りはF1.9開放のみとなります。（B露出について参照）



1.9 2.8 4 5.6 8 11 16 の目盛はマニュアル絞り目盛で、数字を合わせると、それぞれ目盛どおりに絞られます。そして、このときのシャッター速度は1/25秒になります。（フラッシュ撮影のやり方参照）

コニカアイのEE機構が働かないような暗すぎる場所、つまりF1.9 1/30秒でもなお露出不足になるほど極端に暗い被写体の場合には、シャッターボタンを押し下げたとき、ファインダー内に赤色の露出警告マークが現われ、同時にシャッターボタンに安全装置がかかってきません。

こんなときには、そのままではEE撮影ができませんから、ライトを使って被写体を明るくするかフラッシュ撮影をします。

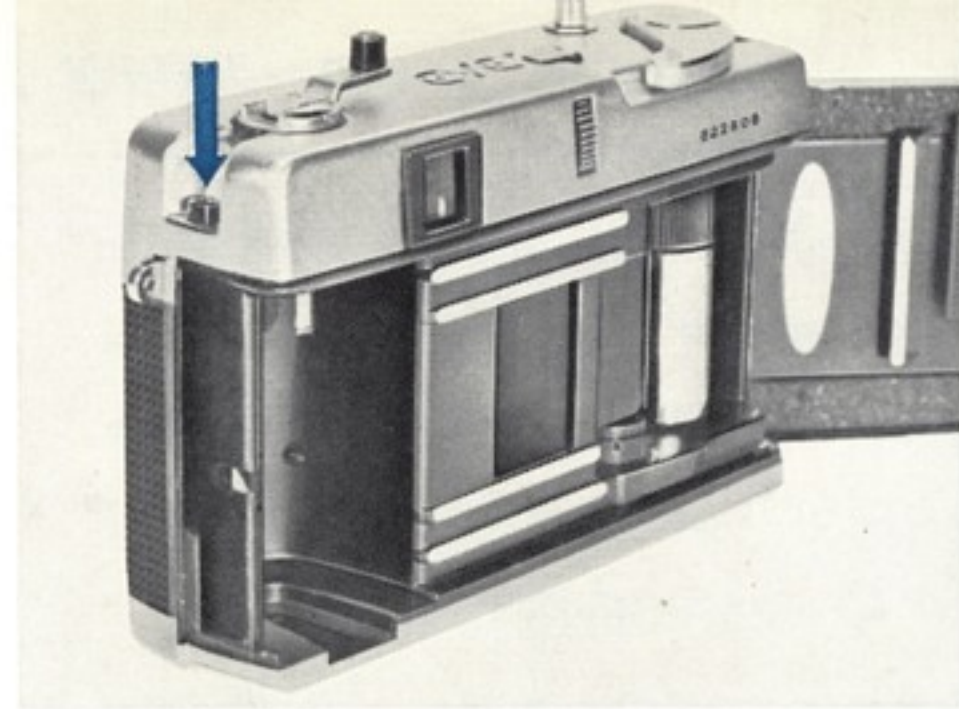


さくらフィルム

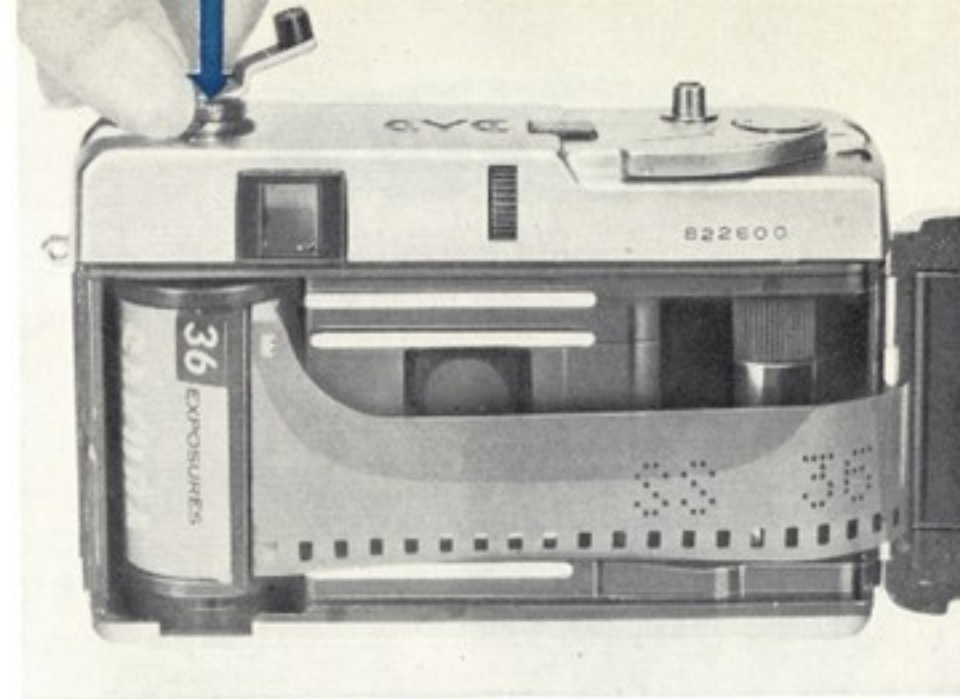
さくらカラーリバーサル ASA 50
さくらカラーネガタイプ ASA 50
コニパン SS ASA 100



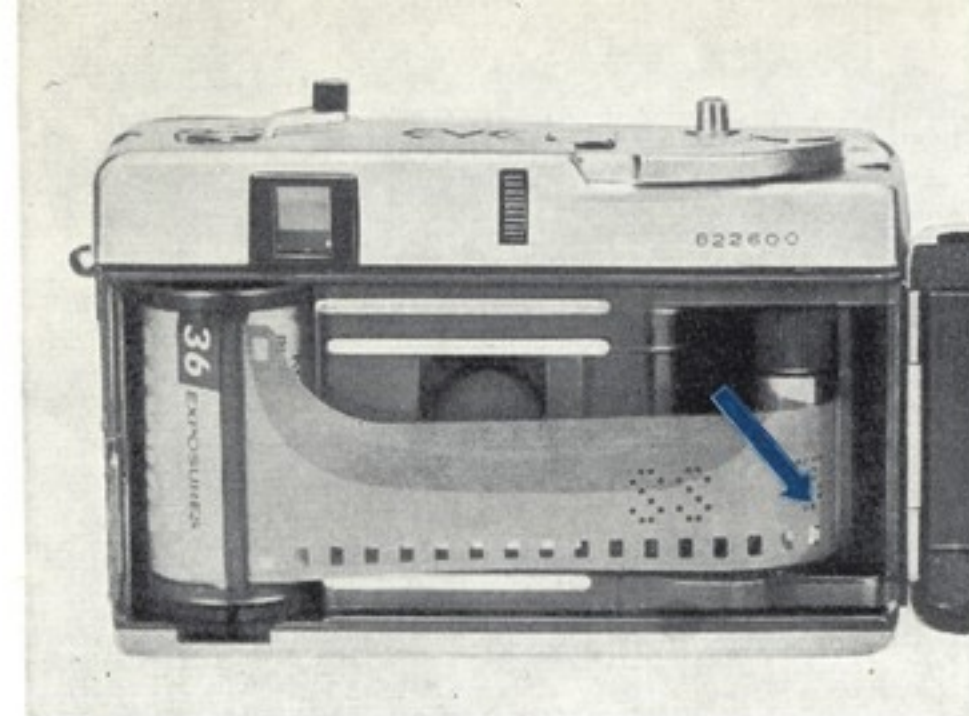
- フィルムの出し入れをおこなうときは、必ず日陰を選んでください。日陰のないところでは、ご自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です。
- マニュアルリングをAUTOからはずして(1.9~16の間どこでもよい)おくと、レンズキャップをつけたままでもカラ写しができますから操作が楽におこなえます。



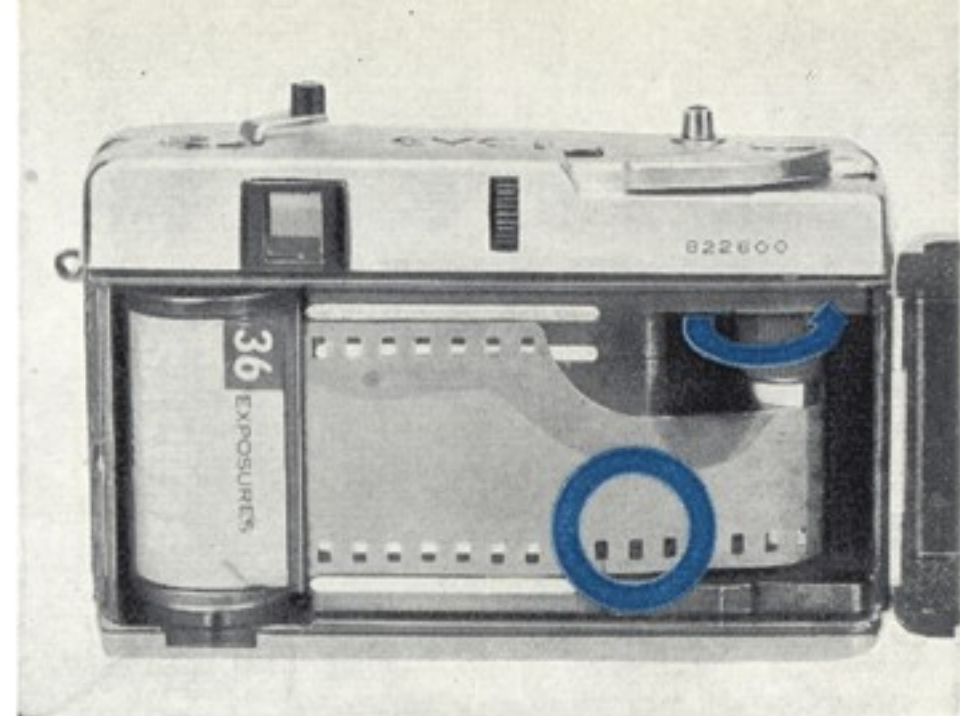
① 巻戻しクランクを起し、その下にある裏ぶた開放ボタンを指先で押して裏ぶたを開いてください。



② 巻戻し軸を引き上げ、パトローネの軸の出ているほうをカメラの底部の方向にしてパトローネ室に納め、巻戻し軸を左右に少し回しながら元の位置に押し込んでください。



③ フィルムの先端を巻取りスプールの溝に十分深く差し込み、(スプールは空転しますから差し込みやすい位置に回してください。) スプールの爪を少し回し、パーフォレーション(フィルムの穴)をスプールの爪に合わせてひっかけてください。

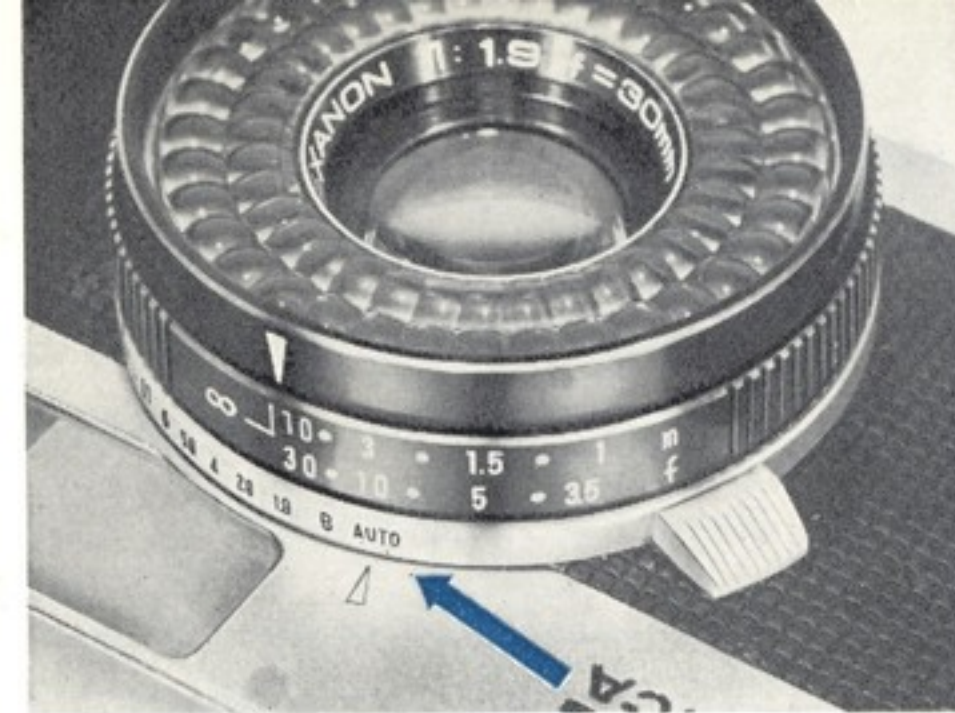


④ 巻取りスプールの指先で回し、二回ぐらいフィルムを巻きつけ、パーフォレーションとスプロケット(フィルムを送る歯車)の歯がカミ合っているのを確かめた上で裏ぶたを閉じます。

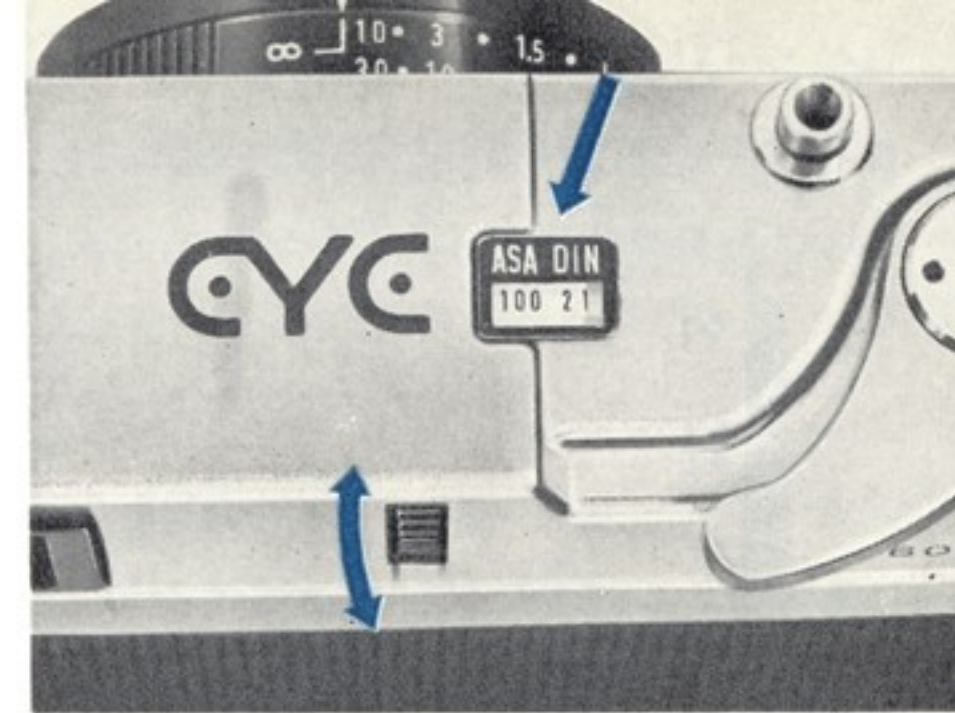


⑤ 巻戻しクランクを矢印の方向に静かに回して、パトローネ内のフィルムのゆるみをなくしておきます。それから巻戻しクランクを元の位置にたたんでおいてください。

⑥ フィルムを巻上げシャッターをきり、カウンターの1の目盛の前のポチが指標にくるまでカラ写しをおこなってください。この巻上げのとき、巻戻し軸の部分が回転すればフィルムは正しく巻上げられています。



⑦ マニュアルリングをAUTOの位置に合わせておきます。



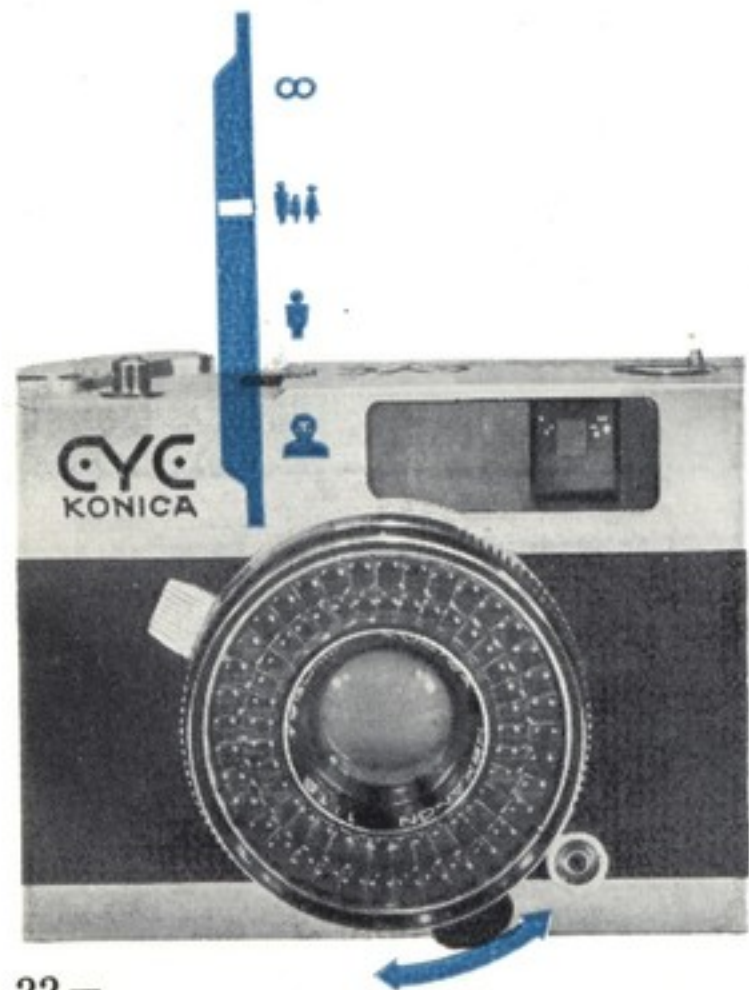
⑧ フィルム感度ダイヤルを回し、使用フィルムの感度(ASA)に相当する目盛を合わせておきます。

——— 以上で撮影の準備ができました。次に巻上げると一枚目の撮影ができます。———

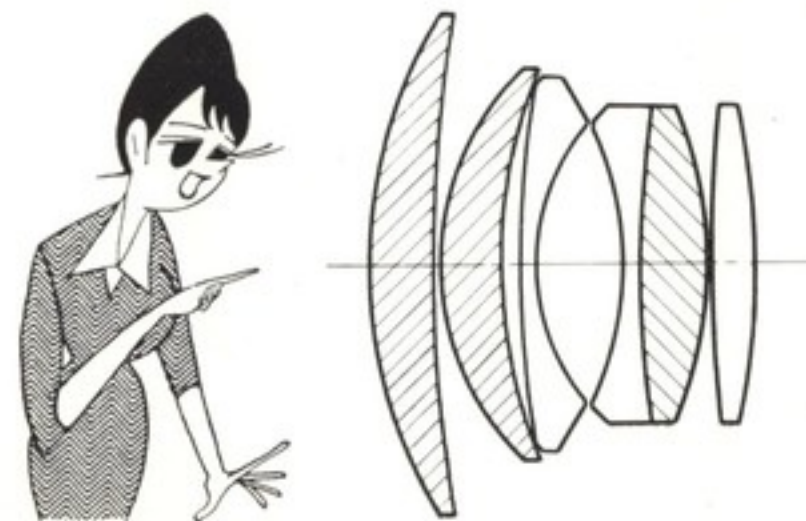
ピント合わせはマークで

ピントを合わせるには、ファインダーをのぞきながらフォーカスノブを動かして、被写体までのおよその距離に応じて、ゾーンフォーカスマークのどれかに指針を合わせます。各マークごとにクリックストップになっています。

∞	10メートル以上	広い風景撮影などに合わせます。
三人マーク	3メートル	数人の集合や一般のスナップ撮影に合わせます。
一人マーク	1.5メートル	人物の半身像の撮影などに合わせます。
顔マーク	1メートル	人物のクローズアップ撮影などに合わせます。



コニカアイのヘキサノンレンズは焦点距離がわずか30ミリですから、被写界深度（ピントの合う範囲）が非常に深いので、ゾーンフォーカスマークを利用して気軽に撮影して十分シャープな写真が得られます。



特に正確な距離合わせの必要があるときは、レンズマウント上の距離目盛で合わせてください。

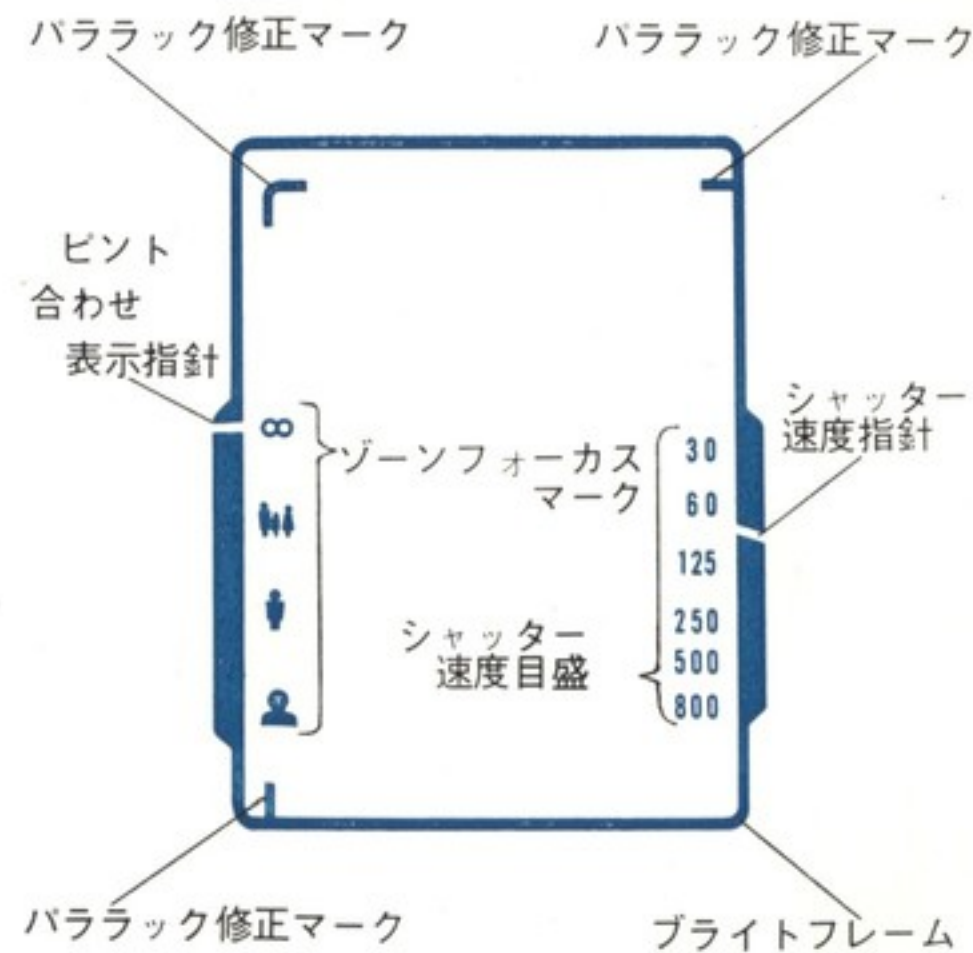
距離目盛はメートルとフィートで、次のような目盛になっています。

	(5)	(2)	(1.2)	
∞	10	• 3	• 1.5	• 1 m
	30	• 10	• 5	• 3.5 ft
	(15)	(7)	(4)	

●カッコ内の距離目盛は・で代用してあります。

ファインダーをのぞくと、周囲に見える
 ブライトフレームの中が、フィルムに写
 る範囲です。写したいものがフレームの
 中に、なるべくいっぱいに入るよう構図
 を決めてください。

近距離撮影（1メートル）のときは、パ
 ララックス（視差）のため、頭のほうが
 欠けるおそれがありますから、パララッ
 クス修正マークの内側で構図を決めてく
 ださい。



コニカアイのファインダー視野には、構図
 を決めるブライトフレーム、パララックス
 修正マーク、ゾーンフォーカスマークとピ
 ント合わせを示す指針、シャッター速度目
 盛とシャッターボタンを押し下げたとき、
 きれる速度をあらかじめ知らせる指針など
 が見えます。

なお、露出警告マークについての項でご説
 明しますが、シャッターボタンを押したと
 きに赤いマークがファインダー視野に現わ
 れることがあります。このときはシャッタ
 ーがきれません。

- ファインダー視野内のシャッター速度目
 盛は **30 60 125 250 500 800**分の1秒
 の六段階を示してありますが、実際には
 は**EE**機構に連動して速度は**30**から**800**
 まで無段階に変化します。

レンズフードのおすすめ

コニカアイ専用のレンズフードが用意され
 ています。レンズフードは撮影光以外の有
 害光防止のために必要です。使用しないと
 きはフードをレンズに逆にかぶせてケース
 に納められます。さらに逆にかぶせたまま
 でもピント合わせができるよう考案されて
 います。

コニカアイは、なるべく速いシャッターがきれるように速度を選んだ特殊プログラムシャッターですから、カメラを片手で持って軽快な撮影のできる特長をもっています。

しかし、画面サイズが小さいため、大きく引伸すには少しのカメラぶれでも影響しますから、馴れるまではカメラは両手でしっかり持って、手、鼻、ひたいなどで顔にうまくつけて安定させ、指の腹でシャッターボタンを静かに押してシャッターをきってください。



●カメラを構えたとき、露出計受光部に指をかけないよう、ご注意ください。

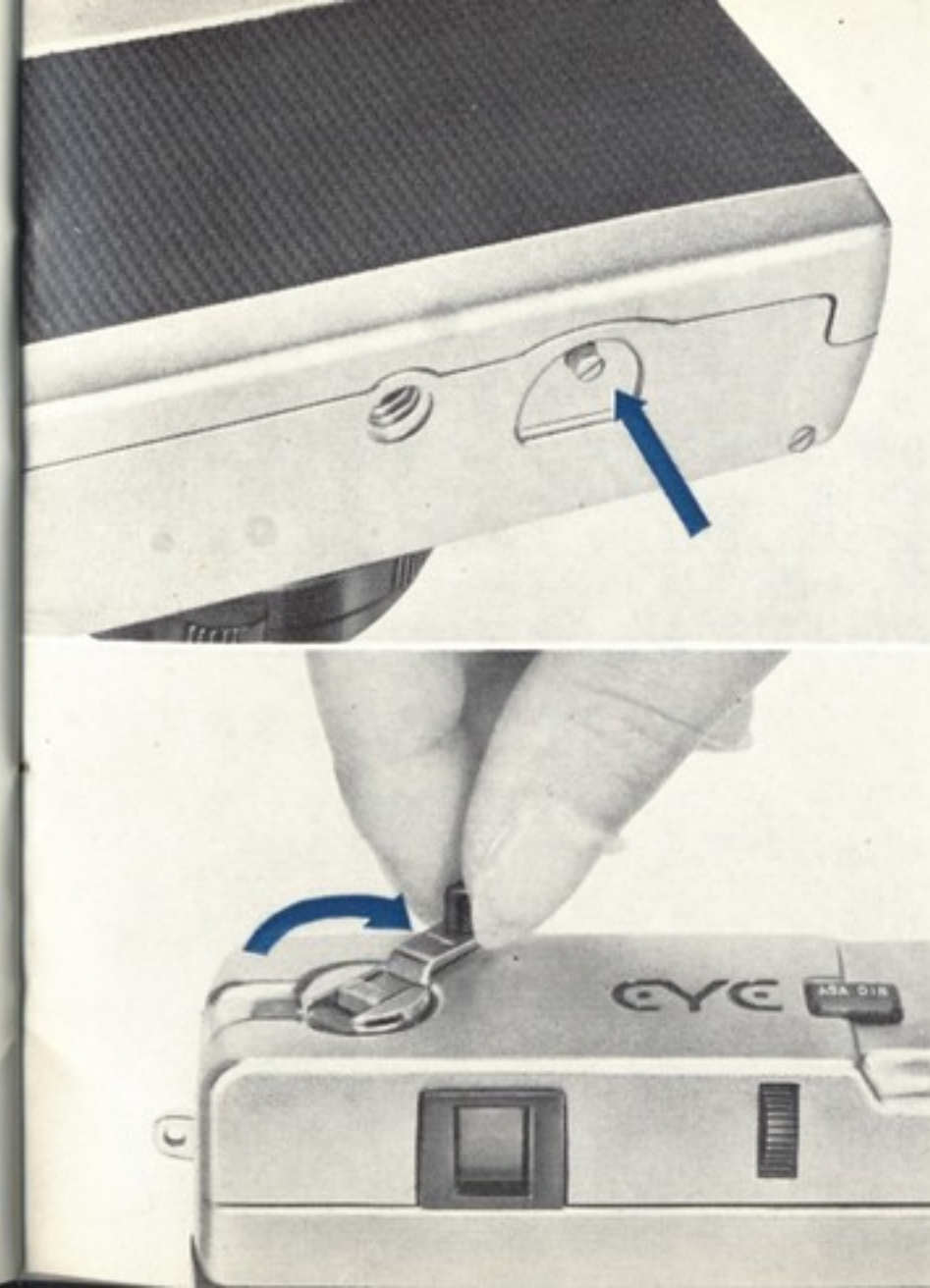


- 三脚を使用するときは、カメラ底部の三脚ねじに取付けます。
- ケーブルリリース、セルフタイマーはシャッターボタンにねじ込んで使用できます。



カメラに入れたフィルムのきまった枚数（20枚撮りで40枚・36枚撮りで72枚）を撮影し終わったら、フィルムを元のパトローネに巻戻します。巻戻しをしないで裏ぶたを開けてしまうとフィルムは光に当たって全部だめになってしまいますからご注意ください。

- ①フィルムが終りになった最後の巻上げで、レバーが途中で動かなくなったときは、無理に巻上げないで、巻戻しボタンを押したまま、レバーを止まる位置まで巻上げて元に戻してください。
- ②巻戻しボタンを押してください。ボタンは一度押せばひっこんだままになります。
- ③巻戻しクランクを起して、矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻戻されてゆきます。
- ④巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、巻戻し完了ですから、裏ぶた開放ボタンを押して裏ぶたを開き、パトローネを取り出します。



- フィルム巻戻し中は巻戻しボタンが回転します。巻戻しが完了しスプールからフィルムの先端がはずれると、急に手ごたえが軽くなり、巻戻しボタンの回転が停止します。
- カメラからパトローネを取り出すときは日陰でおこなってください。
- ひっこんだ巻戻しボタンは、次の巻上げによって元に戻ります。



コニカアイのフィルターは金属枠付ねじ径46ミリ
ピッチ0.75ミリのねじ込み式を使用します。

コニカアイの露出計受光部はサークラインで、フ
ィルターは受光部ごとおおってしまいますから、
フィルターの露出倍数はカメラがちゃんと計算し
てくれるので、なにも修正することなく、使わな
いときと同じように、そのままEE撮影をしてよ
いのです。

コニカアイの専用フィルターは、UV・Y1・Y2
の三種類が用意されています。

UVフィルター……写真に有害な紫外線だけを吸収する
無色のフィルターで、画面全体がすっきりした調子とな
る上レンズの保護にも役立ちます。カラーにも使えます。

Y1・Y2フィルター……紫外線と青の一部を吸収する
黄色のフィルターで、風景、人物、スナップなどで明暗
の描写を強調し立体感を出します。カラーには使わな
いでください。

NDフィルター……色感には全然影響なく光量だけ少な
くする灰色のフィルターで、晴れた雪景色や海岸で撮影
するときなどに最適です。白黒、カラーともに利用でき
ます。





コニカアイのEE撮影では、普通は使用フィルムの感度目盛を正しくセットしたままで写されて結構ですが、次のような特殊な光線状態の場合は修正されることをおすすめします。

●逆光線撮影の場合

非常に明るい背景の人物、逆光線下での撮影のときは、背景の光が強いために、実際に写したいものが露出不足になります。

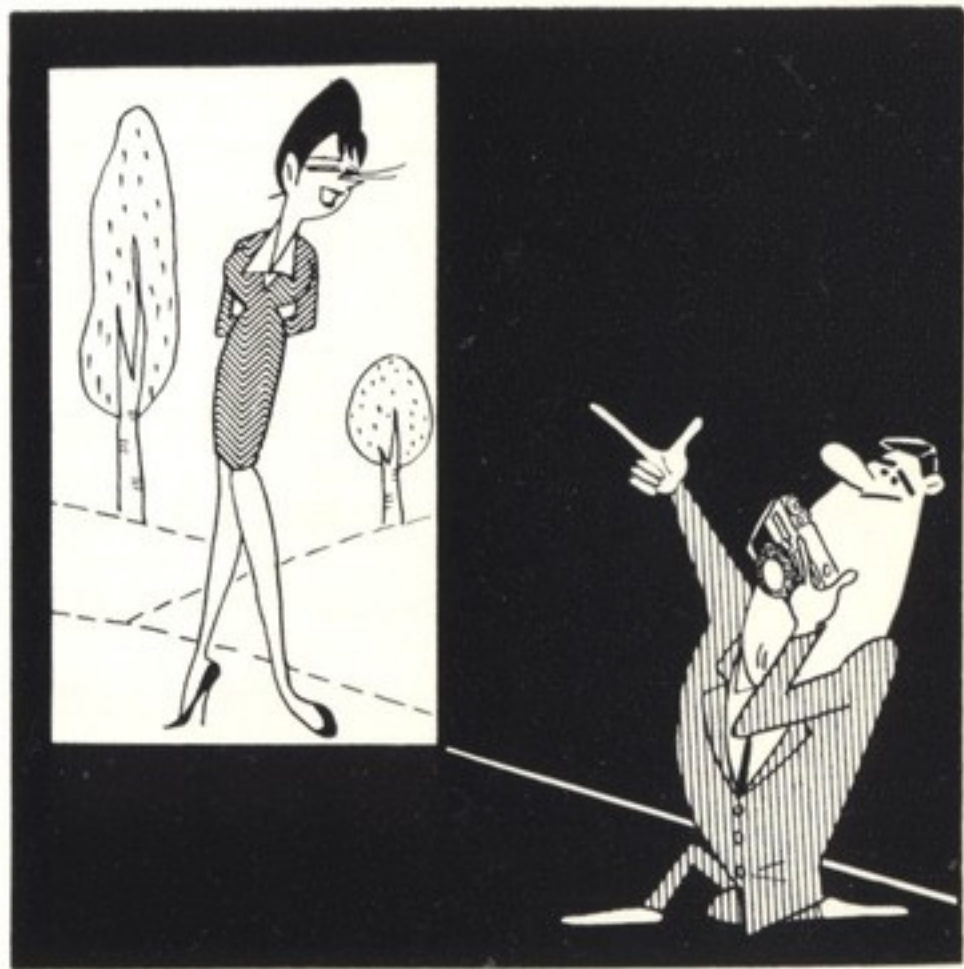
こんな条件のときは、半分下げた数値の感度 — たとえば、使用フィルムがASA 100ならASA 50 — に目盛を合わせて撮影してください。

●被写体だけ明るく周囲が暗い場合

人物だけ明るく背景の暗いような場合、薄暗い室内から周囲を含めて外を写すようなときは、周囲の暗さに影響されて、実際に写したいものが露出過度になります。

こんな条件のときは、二倍に上げた数値の感度 — たとえば、使用フィルムがASA 100ならASA 200 — に目盛を合わせて撮影してください。

●これらの撮影がすんだら、必ず元の感度目盛に合わせてなおしておくことを忘れないでください。



フラッシュバルブ、あるいはストロボの発光とシャッターの開きを同調させ、暗いところでも被写体を明るく写しとめるのがフラッシュ撮影です。

フラッシュ撮影ではAUTOは使用できませんから、マニュアル絞りによって露出を決めます。この場合にはEE機構は解かれ、1.9～16の目盛どおりに絞られます。このときのシャッター速度は1/25秒になります。

接点はX接点ですから、M級、F級のフラッシュバルブ、ストロボのいずれも同調します。



●フラッシュガンの取り付け

フラッシュガンをカメラに取り付け、コードの先端のプラグをカメラボデー前面のフラッシュ接続ソケットにつなぎます。(フラッシュガンホルダー別売)

マニュアル絞りはフラッシュ撮影時のほか一般撮影にも用いられます。ただし、この場合は1/25秒に対する適正絞り値を決めてください。

なお、マニュアル絞りおよびB目盛使用のときは、ファインダー視野内のシャッター速度指針は800の下でロックされています。

●絞りの決め方

絞り値は使用するフラッシュバルブのガイドナンバーを距離で割って求めます。ガイドナンバーはフラッシュバルブの包装ケースに示されています。

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$$

また、フラッシュバルブの種類によってはガイドナンバーが書いてないで、被写体距離に応じた絞り値を直接示したものがあります。

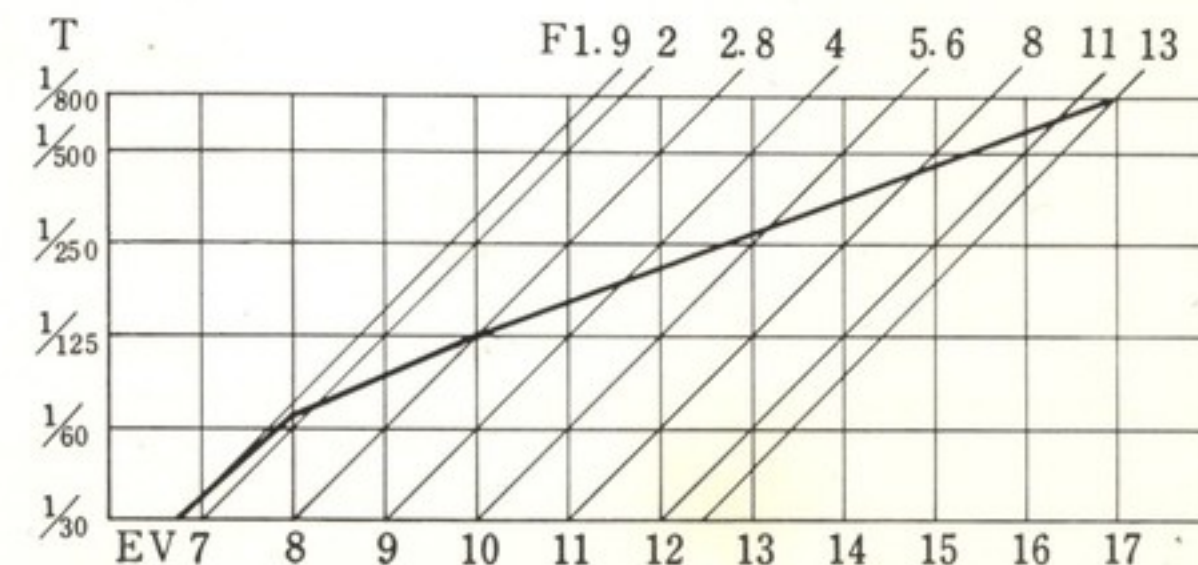


コニカアイのシャッターについて

コニカアイのコバルB特殊プログラム自動シャッターは、あらかじめ組み合わされた絞りとシャッター速度が、一定の関連をもちながらEE機構に連動して、F1.9 1/30秒からF13 1/800秒の間で無段階に変わって露出が決まるしくみで、暗いときには絞りが開いてシャッター速度が遅く、明るいときには小絞りになってシャッター速度が速くなります。これらがすべて自動的に働き、その変化は図の太線のように組み合わされています。

露出計連動範囲：

EV 6.8 ~ EV 17



小西六写真工業株式会社

カメラサービス・ステーション

東 京・中央区日本橋室町 3 - 1	電話 東 京 270 - 5311 大代表
大 阪・南区長堀橋筋 1 - 3 (丸善ビル内)	電話 大 阪 271 - 0451 代表
福 岡・下 呉 服 町 1 3	電話 福 岡 2 - 5535 ~ 7 · 6115
名 古 屋・中 区 日 ノ 出 町 2 2	電話 名古屋 23 - 6241 代表
札 幌・北 二 条 西 2 - 3 2	電話 札 幌 26 - 0261 ~ 5
広 島・鷹 匠 町 9 9 (和田ビル内)	電話 広 島 31 - 2414 · 5631 · 8723
仙 台・三 番 町 1 2 6 (菅原ビル内)	電話 仙 台 22 - 8920

B (バルブ) 露出について

マニュアルリングをBに合わせてシャッターボタンを押すと、バルブ露出といってボタンを押している間だけシャッターが開き、指を離すと閉じるので、夜景撮影など長い露出の撮影に用います。

- B露出は絞り開放のみですから、F1.9 に対する露出を与えてください。

大倍率の引伸しが必要になるハーフサイズではカメラふれが禁物ですから、なるべく速いシャッターがきれのように速度を選び、これに応じた絞りが組み合わされた特殊プログラムを採用しています。

撮影にあたっては、絞りもシャッター速度もカメラにまかせっきりで、カメラを向けてシャッターボタンを押すだけで、適正露出のきれいな写真が写せます。

KONICA



小西六写真工業株式会社

東京都中央区日本橋室町3-1

電話 東京 270-5311 大代表

KE-6406